（２０１２年度山西大学奨学生レポート１０月）

山西の冬支度

後藤　千恵

山西にやって来てから早くも 2 か月が経ちました。9 月、10 月と、気温の変化が激しく、現在は初冬といった気候で、最低気温が零度を下回る日もあるほどです。この気温の変化に伴い、商店や人々の様子もだんだんと変化してきています。そこで、今月は山西の冬支度の様子をレポートさせていただきたいと思います。

まず、街を歩くと、家の中で暖かく過ごすためのスリッパや、電気式の湯たんぽを売る店をよく見かけます。10 月中旬からお店に並び始め、だんだんとその種類や売られる量が多くなってゆきます。お店の店頭に並ぶだけではなく、夕方から夜にかけて、路上でそれらを売っている姿を見ることもできます。スリッパは、素材そのものが厚くなっており、屋内で足を暖かく保つためにとても有用です。湯たんぽは、布団の中に入れて使うというよりも、持ち歩いて手やおなかを温めるためのものが多く売られています。ほとんどが電気式で、日本で売られている単行本と同じくらいの、持ち運びがしやすい大きさになっています。

それから、衣服を売る店に入ると、冬用のコートやセーターはもちろん、手袋や耳あて、帽子、さらに、日本ではなかなか見ることのない分厚いタイツや下着も売られていました。寒くなり始めると、ズボンの下にタイツを履くのが一般的なことのようです。これらの商品を見ていると、山西の本格的な冬がいかに寒いかが感じられます。

また、多くの商店の入り口には　门帘（メンリエン）が張られるようになります。見た目よりも重いものが多く、建物内の暖かい空気を外に逃がさない、また外の冷たい空気を屋内に入れないためのもので、その上、出入りがしやすいものとして多用されています。

そして、商店、個人宅、学校内などありとあらゆる場所に設置されている暖房器具が暖气（ヌアンチー）です。熱湯を循環させることで部屋を暖めるもので、主に 10 月末から使われ始めます。エアコンと異なり、空気が乾燥しないので好まれるようです。

埼玉県と比べ、山西の冬は厳しいものであると聞いていますが、山西には山西の防寒方法が様々あるようですので、それらも取り入れながら冬を乗り切ってゆきたいと思います。

大学内の道路の様子
（街路樹もほとんど葉を落としています。）

スリッパが売られている様子
（これだけたくさんあるということは、需要がある
ということで、このスリッパは山西の冬の必需品と
考えてもよいのではないかと思います。）

門帝（メンリエン）が張られている様子
（大学内の食堂の入り口で、10 月中旬に設置されていました。）

大学内の廊下に設置されている暖気
（教室内だけでなく、廊下、トイレにも設置されています。触れると暖かい程度なので、むき出しであっても危険ではありません。）